



池田めぐみ議会報告

平成24年第2回定例会

一般質問項目

1. ゴミ問題
2. 放射能対策
3. 学校統廃合問題
4. 防災

プラスチック容器回収

隔週一回→毎週一回(8月)

平成24年4月からゴミ回収方法が変わりました。特にこれまでの不燃物からプラスチック容器とペットを分別して回収し、再製品化(リサイクル)されます。

それに伴い、プラスチック容器をきちんと出す必要があります。このプラスチック容器の回収状況は、異物混入や汚れ具合でA・B・Dの3段階であらわされ、再製品化工場の人の話では、現在Dマイナスです。このままですと、再来年には引き取りを拒否されることもあるそうです。そこで、「取手市」としてどのような対策を考えているか、「ゴミ減量化」への

利根川・小貝川等河川の 泥土の放射能濃度の測定を

取手市除染実施計画が環境省で認可され、実質的な作業計画を立てます。除染スケジュールは、

- ①現在高い数値を示す学校6校から計画を立て、環境省へ書類を出し、認可されてから発注し、夏休みに除染。
 - ②スポット的に高い部分を持つ学校や公園や通学路で、9月頃の発注予定。
 - ③民有地に取り掛かるのは来年の1月頃から。
 - ④計画期間は平成26年3月末。
- 新聞に掲載されましたが、5月9日、土浦市備前川小松橋、川岸側のセシウム放射性物質濃度が9550Bq/kgの数値を示しました。(アササ基金HPより)
- 取手市でも川の泥土の放射能濃度が危惧され、調査等しているか聞きました。市は測定していませんが、測定している県に、モニタリング場所を増やし、特に取手の取水口近くの測定をするよう要望を出しています。後で市に確認した所、市の管轄である農業用水等は、汚泥の清掃を良く行っており、放射能濃度の測定数値も低いそうです。

取り組み「この2点を中心に質問しました。広報誌で5回のお知らせや出前講座をしていきます」という回答でした。しかし、常総広域センターから配布された「ゴミ分別の仕方」のDVD10本は、出前講座のみで、あまり利用されていません。家庭教育学級や各自治会等での説明会も必要と考えます。

「ゴミ減量化の取り組みは、生ゴミ堆肥化やレジ袋有料化等を進めるとのことです。」

「ゴミ減量化で一番大事なのは、そもそもゴミになるものを出さないこと、リサイクルよりリユースをすすめることが大切と考えます。」

文科省・県で作成された 原子力関係の副読本 もう一度内容の確認と変更を



すでに報道もされましたが、文科省でも作成した副読本の見直しをすることになりました。この副読本の題名は「知ることから始めよう放射線のいろいろ」で、自然界には放射線が存在するから安全です、と書いているような本です。県で作成されている副読本は、「原子力とエネルギー」という題名で、原子力発電推進の立ち位置です。ともに平成24年3月末配布され、まだ学校で利用されていません。私の聞き取り調査では、3・11以前は6時間ぐらいの授業を行っていたが、それ以降はあまり活用していないそうです。

副読本の配布中止と回収、内容の見直しを求める陳情は賛成10、反対15で残念ながら否決されました。今後副読本の見直しを県や県に求める要望を出して行く必要があると思います。

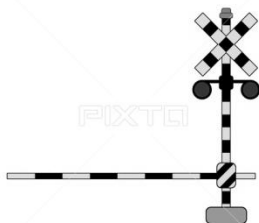
市長提案、気になった議案

新田踏切廃止に伴う市道廃止

<現在までの経過>

- 昭和55年…跨線橋を作る計画が持ち上がる。
- 昭和62年…JRと藤代町で協議書を交わす。
(跨線橋計画/新田踏切除去 取り決め)
- 平成9年…事業認可。立体事業に着手。
- 平成20年…常磐線藤代構内藤代跨線道路橋桁架設工事に関する協定書(原協定)
- 平成21年…JRと県で原協定の変更協定書、
新田踏切を跨線橋の供用開始と同時に閉鎖する。
- 平成23年…第4回定例会、請願・陳情採択
請願 → 新田踏切存続に関する請願
陳情 → 本踏切廃止を前提とする市道の廃止、変更は、
都市計画道開通後も5年間延期
- 平成24年…2月28日JR東日本水戸支社に市長陳情
- 平成24年…第2回定例会、新田踏切閉鎖・市道廃止議案提出

「バリアフリーの観点」旧藤代地区の中心市街地区で重要な踏切「執行部の説明不足」の3点で反対討論をしました。しかし、賛成15、反対10で市道(新田踏切)は廃止となりました。



平成24年一般会計補正予算

- ①放射能除染対策費用、本格的に小中学校等29施設の除染が行われる。約18億円計上される。
- ②プラスチック容器回収が、8月から隔週1回→毎週1回に変更され、約1000万円増額。
- ③学びのサポートプラン、5年生の分追加。約50万円増額。学びのサポートプランとは、夏休みに5日間行われる算数の補習授業。聞き取り調査では、サポートプランは評判が良く、習熟度クラス編成で効果を上げている。以上3点について賛成討論しました。全員賛成で採択されました。



再製品化工場から 話を聞きました

取手で回収されたプラスチック容器は、秋田県にあるクリーンセンターで再製品化されます。ここでは、回収されたプラスチック容器の5割が、プラ杭・ペレット・擬木・車止め等になります。残りの5割は、再製品化できず、サマルリサイクルとして固形燃料になり、キロ3円で製紙会社に売られています。ところが、常総広域センターから搬入されたプラスチック容器は、4割しか再製品化されず非常に生産性が低い状況です。5月の段階ですが、回収された10トンのプラスチック容器に、約9キロもの異物混入がありました。

医療器具・ガスライター等の危険物は、絶対入れない！
汚れているものは、洗って水を切ってください。